

# 日本ウィニコット協会 Newsletter

Vol.9 2022

## 目次

リレーコラム「子どもの育ちと環境」(山崎 篤) .....	1
リレーコラム「クラスターのこと」(横井 公一) .....	3
ウィニコット・フォーラム 2022 「「環境」について考える」 .....	5
「ウィニコット研究」投稿募集 .....	8
協会からのお知らせ .....	11
編集後記 .....	13

## リレーコラム

### 子どもの育ちと環境

JPS 精神分析的な精神療法家センター 山崎 篤

在胎中であっては、羊水の中で栄養の摂取を始めありとあらゆることが思いのままであった子どもは出産という事態を経て、この世の生れ落ちた瞬間から、そこがかつて暮らしていた天国ではナイということ突きつけられる。思うがまま、感じるがままであった状態から、現実原則に支配されたこの世へと移行するのである。

さて、どんな体験であるのでしょうか？であったのでしょうか？

小児科医でもあったウイニコットは、このことに大変自覚的だったと思います。1952年の英国王立医学会での講演で示された「人格の基本的な分裂」という図をじっくりと見ますと、そのことが伝わって参ります。ありとあらゆる欲望（胎児なのでたかが知れとりませんが）が適えられていた状態から、まさかの出産！北山先生のあの名曲の歌詞のように、神様から「出てイケー！」と言われたわけではないでしょうが、体験世界が天国・ゴクラク→1. 生きていくには呼吸をしなくてはならない、とか2. 栄養摂取と排せつもマスト、とか3. うーん、体温調節しないと死んじゃうね。以下延々と続くあれやこれやに取り囲まれた環境に曝されていくということになりましょうか。

この世で生きていくためには、偽ることも欠かせないよとも突きつけられますね。まあ、今これを書いているワタクシも、ホントは別の欲望があるにも関わらず、締め切りに間に合うようにと書いております。これ読む皆様もそうでしょう。こんな駄文を読むよりか、バックグラウンドムービー的に大画面で流れているおバカなユーチューブ見たい、とか、ヤフーニュースのチェックをば！とかとかですかね。そうそうヒトコト、コメントも。

タイトルとした子どもに話を戻しますね。自分一人では何もできない状態から、人生は始まります。自然環境も、物的環境もそして人的環境も選べません。我々臨床家の前には、百人在れば百通りの、それぞれの環境の下に生れ落ちてこられたクライアントがお出でになる、ということになりましょうか。100%のパーフェクトな発達促進的環境というのは、ありそうでナイものです。「虐待増えている！」と昨日、学会の席で教わりましたし。

養い護るという意味で養護的な大人であることが期待される親にしても、子どもが生まれてからでしか親になっていく方法がナイことも多々ありましょう。（その点では、保育所や認可園での子育て支援の取り組みに期待してマス）社会全体が、総がかりとなって子

どもを慈しみ、愛していくという当たり前のことが実現されますようにと、願わざるを得ません。

子どもの精神分析的プレイセラピストとしても、パーソナリティ障害だなんてビックリするような診断名をお持ちの方と臨床的に出会いしていく身としても（過去を遡る中で、あの時に見つけておいてもらわれていたら、と考えざるを得ません）、みんなでその子どもにとっての最適解（に、近いもの）となるような環境を構築していきたいものだと考えたところ、です。

昨日は、とあるミッション系の大学院で子どもの臨床について講義するというミッションがございました。学生さんたちにも、このことは強く訴えて参ったのですが、彼女たちにはゼヒゼヒ子どもの立場で物事を考えられるような、そしてモチロン養護的な役割を期待される親御さんたちも適切に支援していけるような臨床家になってもらいたいと考えております。

## リレーコラム

### クラスターのこと

微風会 浜寺病院 横井 公一

クラスターのことについて書かせてもらおうと思う。こういう場でしか書きにくいことだが、私の勤務している病院でも新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。私の受け持っている病棟で発生したのは今年2月初め、第5波のときだった。最初の患者さん、松野さん（仮名）のときにはそれと気づかなかった。松野さんは90歳代前半の認知症のおばあちゃん、若い頃は歌劇団に所属していて歌や踊りを演じていたそう。おばあちゃんになってもきれいな人だったが、口はとびきり悪かった。その松野さんが発熱して、数日のうちに呼吸状態が悪化して亡くなった。誤嚥性肺炎でもない、老衰ともいえない、何かおかしい感じだった。おそらく新型コロナウイルス感染症だったのだろう。

次に発症したのは、松野さんの部屋の前あたりでいつも車椅子で過ごしていた久米さん（仮名）だった。アルコール症だった方で、交通事故で頭部外傷を負い半身麻痺があった。挨拶するといつも怒ったような口調で返事をしてくれたが、それは機嫌のいい証拠だった。その久米さんが発熱して、検査をするとコロナ陽性だった。そこから数日の内に熱発者が続出し、またたくまに感染者が広がり、最終的には60床の病棟の半数ほどの者が罹患した。

もともと平均年齢が80歳にちかいお年寄りばかりの病棟なので、感染が広がり始めるとひとたまりもない。受け入れ先もないので慢性期病棟はいきなり急性期感染症病棟に様変わりして、詰め所と病棟はビニールシートで分断され、スタッフは防護服を着て病棟に入るようになった。点滴などの処置の手間が膨れ上がり、患者さんの食事や排泄の介助は手薄になった。患者さんとの会話や声かけもままならない。情緒的な交流は遮断されたまま、病棟はロックダウンされた。患者さんたちはそれまで当たり前にあった環境を喪失して、何か真空のような病棟の中で次々と衰弱していった。新型コロナウイルス感染症ですぐさま亡くなった方は少なかったが、感染症で衰弱した人たちは、動けなくなり、食事がとれなくなり、やがて生命力が尽きて亡くなっていった。

最後に亡くなられたのは、松山さん（仮名）だった。大学受験の頃に発症された統合失調症の患者さんで、50年以上を病院で暮らしている人だった。ベッドサイドに診察に行くと、いつもNHKラジオ第2放送がかかっている、語学番組を聴いていた。ベッドサイドには弦の切れたギターがおいてあり、ベッドの上には大学ノートが散乱していた。具合はどうですか、と訊ねるといつも、順調です、と答えていた。その松山さんが寝たきりにな

り、食事もとれなくなり衰弱していく頃、意識だけはしっかりしていて、具合はどうか、と訊ねると、こわいです、と答えられた。松山さんを最後に、1ヶ月半くらいの間に、病棟の4分の1ほどの方々がお亡くなりになった。

春になる頃には感染も終息し、残された患者さんたちも少しずつ体力を回復し、病棟はふだんの様子に戻っていった。病棟と詰め所を分断していたビニールシートも外され、詰め所や病棟の中にも声に戻ってきた。私も日常の業務に戻ったが、私のなかで何かが戻ってこなかった。何かが欠けてしまった感じがした。私の回りに当然のようにあった環境の一部を私は喪失してしまったのだろう。いなくなった患者さんたちは、長い時間を私がともに過ごした方々だった。クラスターのその間に、病棟の中で起こった出来事は、コロナ禍の長い日々の中に私たちが体験してきた喪失体験の濃縮された形での体験だったのかもしれない。

先日、横浜で開催された日本精神分析学会第68回大会に参加してきた。久しぶりの対面での大会で、会場は賑わっていた。中村留貴子先生をはじめとする実行委員の先生方のご苦勞はいかばかりのものだっただろう。最終日のシンポジウムを会場で聴きながら、ああいつもの学会だなあと思いながら、私のなかでは何かが失われているような感覚がしていた。私のなかで何かが戻ってこなかったのだろうか。そうこうしているうちに、来月に私は65歳の定年の年齢を迎えるのだった。

ウイニコット・フォーラム 2022

## 「環境」について考える

ウイニコットは、人のところが環境とのかかわりのなかで発達する、と考えました。つまり彼の情緒発達理論は、対象との関係で捉えるものです。それらを概念化したものとして、錯覚-脱錯覚の理論、抱えること、ほどよさといったことばを私たちは知っています。この「環境」について、考えてみたいと思いました。たび重なる災害、Covid-19、ロシアのウクライナ侵攻。私たちは今、急激な脱錯覚、抱えられないこと、ほどよくないこと、のなかを生きています。今改めてこの概念を考えると、これまで私たちが思っていたようなウイニコットの考えに、異なる側面を見出せそうな気がするのです。みなさまにもぜひその議論に加わってくださるよう、お願いいたします。

記

日時：2022年11月20日（日）10:00~17:50

会場：オンライン（定員200名）

+たかつガーデン（大阪府大阪市天王寺区東高津町7-11）（定員20名）

参加資格：守秘義務のある専門家に限ります

参加費：会員 ¥5,000 / 非会員 ¥6,000 / 大学院生 ¥3,000

※会場参加の方は上記の値段に+会場費¥3,000を当日会場にてお支払いいただきます。

申込方法：以下のGoogleフォームからご登録いただきます。

<https://forms.gle/9aDkEQG5Utnv9KfB7>

申込締切：2022年11月13日（日）

お問い合わせ：winnicottforum@gmail.com

参加可能な方に受諾のご連絡と参加費の振込先をメールいたします。

※お問い合わせ、その他ご連絡は基本的にメールで行います

※会場開催とオンライン開催それぞれについて、日本臨床心理士資格認定協会の定める資格更新ポイントを申請する予定です

プログラム

10:00~10:05 開会のあいさつ

10:05~12:30 大会企画シンポジウム「「環境」について考える」（オンライン+会場）

シンポジスト

「治療構造論と環境」中村 留貴子（千駄ヶ谷心理センター）

「精神分析とエコロジー」西依 康（自治医科大学 精神科／精神腫瘍科）

「破壊性についての試論」増尾 徳行（ひょうごこころの医療センター／

上本町心理臨床オフィス）

指定討論：生地 新（まめの木クリニック）

司会：石田 拓也（追手門学院大学）

星野 修一（京都大学大学院博士後期課程）

12:30~12:45 総会

12:45~13:30 休憩

13:45~15:00 特別講演 「「環境」とシステム論」（オンライン+会場）

館 直彦（たちメンタルクリニック）

司会：日下 紀子（ノートルダム清心女子大学）

15:00~15:15 休憩

15:15~17:45 ★会員企画シンポジウム「愛情剥奪の臨床」

（オンラインのみ※後日アーカイブ配信あり）

シンポジスト

「客観的剥奪と主観的剥奪」川崎 俊法（たちメンタルクリニック／  
上本町心理臨床オフィス）

「解釈することを促すもの、とどまらせるものについて」弘田 洋二  
（上本町心理臨床オフィス／大阪公立大学）

「治療者が現実に不在になること：緊急支援との関連で」石田 拓也

指定討論：横井 公一（医療法人微風会浜寺病院）

司会：筒井 亮太（立命館大学）

★事例検討（会場のみ）

事例提供：片山 貴美子（そうしん堂レディスメンタルクリニック）

「自らの出自にかたをつけるということ

—女性である自分を生きることの葛藤をめぐって—」

助言：中村 留貴子

西依 康

司会：渡部 京太（特定医療法人群馬会 群馬病院）

増尾 徳行

17:45~17:50 閉会のあいさつ

**フォーラム参加に際しての留意点および遵守事項：必ずお読みください**

今年度のウニコット・フォーラムは、オンラインと会場のハイブリッドで開催されます。オンラインでご参加の皆様におかれましては、以下の事項についての順守をお願いいたします。同意いただけない場合には、参加を承認することができません。ご了承ください。

1. 参加資格は、守秘義務のある専門家に限定いたします。
2. 参加に際して得られた情報は厳重にお取り扱いください。SNS 等をはじめとするオンラインへの掲載および投稿は固く禁じます。
3. 開催 10 日ほど前に、参加者には配信を行う URL をメールで送信いたします。このメールを他者に転送することは厳禁です。
4. 個人での録画や録音は、スクリーンショットも含めて、すべて認められません。
5. フォーラム参加に際しては、プライバシーの確保できる環境でお願いいたします。参加者以外の人 が画面を見たり、音声を聞いたりすることができない環境でご参加ください（カフェや図書館など他の人が偶然にでも画面を見たり、音声を聞いたりすることができる環境での参加は認められません）。
6. 無料 wi-fi などの通信を傍受できる可能性のあるネットワークからは参加しないでください。
7. オンライン実施のため、電波状況によっては中断などが生じる可能性があることをご了承ください。
8. 個人の受信環境により当日参加できなかった場合、返金は致しかねます。ご了承ください。
9. その他、プライバシーの問題に抵触する可能性のある言動等は、一切お控えください。

**「ウニコット研究」投稿募集**

**「ウニコット研究」投稿募集**

この度、当会では、日本ウニコット協会雑誌「ウニコット研究」を発刊いたします。投稿論文の募集も開始いたしますので、下記の投稿規定をご参照ください。なお、投稿規定は協会 HP にも掲載しております。会員の先生方からの積極的な投稿をお待ちしております。

## 日本ウィニコット協会「ウィニコット研究」投稿規定

### 1. 投稿資格

投稿は原則として、日本ウィニコット協会正会員、顧問に限る。

### 2. 投稿条件

論文内容は未刊行のものに限る。

### 3. 採否

論文の採否、掲載順などは編集委員会が決定する。

### 4. カテゴリー

投稿する論文のカテゴリーは以下の通りである。

論考：ウィニコットや独立学派精神分析の実践や芸術，その関連領域における，理論，概念，歴史や文化的背景などについての著者独自の見解を提起する論考。12,000字以内を目安とする。

総説：特定の主題についての学問的動向を遠望し，筆者独自の論考を示した論文。12,000から28,000字以内を目安とする。

原著：個人・集団の心理療法や心理検査による臨床研究，観察研究，質的研究，実証研究，また文化や芸術領域等における論考であり，独立学派精神分析とその関連領域についての著者独自の主張が提起されている論考。12,000字以内を目安とする。

著者は投稿の際，掲載を希望するカテゴリーを表題の前に明記すること。

### 5. 図表

図表，写真などは図1・表1と順序を付け，それぞれに和文で題をつける。文字数の制限に図表は含まない。

### 6. 原稿の作成

原稿はワードプロセッサを用いて作成する。A4用紙に横書き，40字×40行を目安に原稿を作成すること。

### 7. 外国語の表記

人名，地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。

(例：Winnicott, D, W / Freud, S / London)

## 8. 引用

文献の主著者のアルファベット順に番号を付し、本文中にその番号を適当な個所に付す。肩付きで (1) (2) のように記載する。本文の末尾に「文献」という表題にて文献リストを付し、文献を番号順に記載する。各文献は、雑誌に掲載された文献については、著者名、発行年、題名、誌名、巻、ページの順、単行本の場合は、著者名、発行年、書名、出版社名、発行地の順に掲載する。

(例)

(1) 妙木浩之 (2021) : Laplanche の「謎のメッセージ」. 精神分析研究 65 (4) , 369-375

(2) Bollas, C. (1979) : The Transformational Object. International Journal of Psychoanalysis 60, 97-107

(3) Patrick Mahony. (1987) : Freud as a Writer. Yale University Press. 北山修監訳 (1996) : フロイトの書き方. 誠信書房, 東京

(4) Winnicott, D. W. (1968) : The use of an object and relating through cross identification. In Winnicott, D. W. (1971) : Playing and Reality. Basic Books, New York. 橋本雅雄訳(1979) : 遊ぶことと現実. 岩崎学術出版社, 東京

## 9. 表題等

表題、著者名、著者所属、5語以内のキーワードをつける。

## 10. 要約

原著については、本文はじめに 800 字程度の邦文要旨を付す。

## 11. プライバシー

クライアントのプライバシーに十分配慮せねばならない。臨床研究においては、その情報は修飾することとし、経過の詳細等よりも主張の独自性を重視する。

## 12. 投稿の方法

投稿の際は、論文の電子データを（原則として Microsoft の Word 形式）を電子メールの添付ファイルとして、日本ウイニコット協会事務局（jwasecretariat@gmail.com）宛てに送信する。

## 協会からのお知らせ

### 研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウニコット協会では、ウニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【[jwasecretariat@gmail.com](mailto:jwasecretariat@gmail.com)】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データやPDFなどがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

## 協会からのお知らせ

### 年会費納入のお願い

2022年度（2022年4月～2023年3月）の日本ウニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、まだお振込みでない方は、下記口座に振込をお願いいたします。

#### 記

○年会費：5,000円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウニコット協会

\*必ずお名前をご明記ください。

\*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

## 編集後記

先日、小一時間空くことがあって、前から気になっていたジャズ喫茶？に行きました。（とはいえ、私は音楽のことはからっきしなのですが。）4脚ほどのカウンターと、二人掛けのテーブル席が2つの小さなお店でした。まだ暑さが残る日だったのと、私は喉が渴いていたのでアイスコーヒーを頼みました。マスターは豆を挽くところから始めて、口の細いケトルで、少しずつドリップしていきました。その後、シェイカーに氷とドリップしたコーヒーを入れて冷やし、うすはりのグラスに注いで出してくれました。私はその変に空いてしまった時間を、コーヒー片手に読みかけの本を読んでつぶすつもりでした。しかし、私は本を出したまま開かず、マスターの手仕事を見ながら過ごしていました。なんて丁寧な手仕事なのだろう、と私は感心しました。音楽と、コーヒーを淹れる音しかない店内は、なんだか特別な空間のように思いました。気が付けば、約束の時間が迫っていたので、私は慌ててコーヒーを啜るハメになったのですが。コーヒーを飲みながら時間をつぶすだけなら、どこでもいいわけです。しかし、特別な体験をしたような気持ちになったのは、そのマスターが設えた環境のおかげだったのだろうと思いました。

そんなわけで、ウィニコット・フォーラム 2022 のテーマは「「環境」について考える」です。締め切りが迫っていますが、まだ間に合います。ご参加検討中の先生方がいらっしゃるようでしたら、ぜひお申込みを。会場またはオンラインでお会いできることを楽しみにしています。

(奥田久紗子)

---

2022年11月11日発行

日本ウィニコット協会 Newsletter vol.9

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウィニコット協会

日本ウィニコット協会事務局

e-mail：jwasecretariat@gmail.com

HP：https://winnicottforum.com

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町6丁目6-26 上六光陽ビル 601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内

---